

診断結果のガイドライン

〔総合判定〕

判定	内容
A	超安心、安全。家計と住宅ローンの関係は理想的です。
B	一定の安心がありますが、家計改善を検討する余地があります。
C	家計に対し、住宅ローンのリスクが高く、家計改善並びに資産運用の強化を検討しましょう。
D	家計に対し、物価上昇や住宅ローン金利の上昇に脆弱な状態であるため、家計の抜本的な改善を検討すべきでしょう。

〔借り過ぎ判定〕

判定	内容
A	家計に対し、住宅ローンが適切な範囲に収まっています。
B	現状、家計収支は問題ありませんが、万が一金利が上昇すれば、家計収支が赤字化してしまう可能性があります。
C	現状、家計に対し住宅ローンの借入金額が過大であり、金利が上昇すると家計収支が不安定になる可能性が高いです。
D	家計に対し住宅ローンの借入金額が過剰であり、金利が上昇すると、家計が破綻してしまうリスクがあります。

〔返済額判定〕

判定	内容
A	家計収支は、ほぼ黒字化したまま退職を迎えられそうです。
B	家計収支は、ある程度安定して黒字化していることが期待されますが、金利が上昇すると赤字化する可能性があります。
C	家計収支は、金利が上昇すると赤字化し、預貯金の取り崩しを余儀なくされる可能性が高いでしょう。
D	家計収支は、金利の上昇に対して極めて脆弱で、家計が破綻してしまう可能性もあります。

〔退職時純資産〕

判定	内容
A	退職時純資産は、金利の変動にかかわらず、目標を達成することが可能です。
B	退職時純資産は、金利の上昇があれば目標に達成しないことがあるかもしれません。
C	退職時純資産は、金利の上昇があるとほぼ目標を達成することができなくなるでしょう。
D	退職時純資産がマイナスとなり、家計破綻となる可能性があります。

〔物価上昇分析〕

判定	内容
A	物価が上昇しても、金利の変動に関係なく老後資金が問題ないと考えられます。
B	物価上昇に加え金利が上昇すると、平均余命の前に資産が枯渇する可能性があります。
C	物価と金利の上昇が重なると、退職後まもなく資産が枯渇する可能性があります。
D	物価と金利の上昇が重なったため、老後資金が大幅に不足する可能性があります。